

謹弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

富 永 博 氏	山口市医師会	1月25日	享年 66
最 所 陽太郎 氏	柳 井医師会	1月27日	享年 85
加 藤 欣士郎 氏	下関市医師会	2月 4日	享年 69
森 信 謙 一 氏	下関市医師会	2月 9日	享年 58
吉 永 孝 富 氏	宇部市医師会	2月12日	享年 92

編 集 後 記

コロナが蔓延している昨今、よく考えることがある。人生で楽しかった事ってなんだっけ？思い起こせばいろいろあったなあ。そのうちの一つがエジプト旅行。決してアウトドア派とは言えない自分が、いままで行った中で最も楽しかった海外旅行先である。

エジプトにはご存知のとおり、たくさんの見どころがある。スフィンクス、エジプト考古学博物館の有名なツタンカーメン黄金のマスク、王家の谷、ルクソール神殿やカルナック神殿、アブシベル神殿など数々の神殿、他。とても短い文面で書ききれものではないが、衝撃を受けたのは、世界の7不思議の一つであるギザの3大ピラミッドだ。3大ピラミッドとは、エジプト古王国時代（日本では縄文時代）の約4,500年ほど前に作られたクフ王、カフラー王、メンカウラー王のピラミッドのことである。3つのうち最も大きなものはクフ王のピラミッドで、紀元前2550年頃につくられたようだ。形態的には4角錐で、建造当時の高さが約147m（今は頂部がなくなり137m）、底辺の一辺の長さが230mもある。内部へ入ることもできるが、高低差がかなりあり、身をかかめないと進めない部分もあるため、意外と体力が必要だ。

ピラミッドは写真で見ると「まあ、わざわざ見に行かなくても山口にも同じぐらいの小山がたくさんあるじゃないか」、という程度の感覚であるが、実物を間近で見ると、・・・えっ？・・・と、しばし絶句するぐらいバカでかい。平均2.5トン（最も大きな石は60トン）の石を約230万個も積み上げて作られているのだ。

テレビなどでよく見かける今のピラミッドの表面は、ごつごつした階段状となっているが、完成当時はなめらかな化粧板（岩）で表面を隅々まで覆われ（石材として表面を覆っていた良質のきれいな化粧岩（石灰岩）の大半が盗まれ、現在、化粧板が残っているのは2番目に大きいカフラー王のピラミッドの頂部と下部の一部のみ）非常にきれいな真4角錐だったようだ。この存在感抜群のピラミッドは、その建造目的や建造方法（巨石をどうやって輸送し、積み上げていったか）、平均2.5トンものきれいに整えられた石をどのような器具で採石場から切り出したのか、など、いまだ解明されていない謎が多い。

とにかくピラミッドは、とてつもなく大きく、感動的だった。

（理事 藤原 崇）